



しらい
防災マスター会
お茶の間
防災教室

防災活動一年を振り返り

みんなでつくる災害に強いまちを目指し

私たちの今年の活動を振り返ると、「避難所運営ゲームHUG」「お茶の間防災講座」「心肺蘇生講習AED」などを中心に多種多様な取り組みを行い、活動回数は20回近く、約310人が受講しました。特に「避難所運営ゲームHUG」は

中学校や高校で行うことができ、子どもたちへの防災教育を進めることができました。「お茶の間防災講座」では、道内でも高齢化率が46、47%と高い白老で「記憶に残る大震災・北海道でも起こりえる自然災害・高齢化と避難・住民がとるべき避難行動」などの題材で講話を行いました。

災害時には三つの助「自助・共助・公助」の大切さが言われますが、私たちは自助と共助の間に「近助」を加え、普段からのご近所付き合いのつながりを大事にして、地域の防災力(町内会の防災力)を高めることができるよう提言してまいりました。令和6年も私たちは「誰一人 取り残さない防災活動・近助」を掲げ活動してまいります。災害の無い年を願い、合わせて皆さまのご健康をご祈念申し上げます。



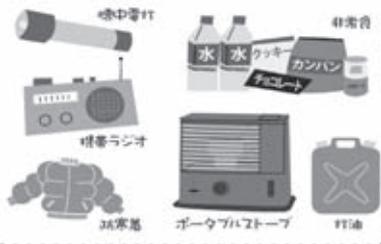
はぎつ子げんき宿2023での活動模様
(しらい防災マスター会・民部)



大雪と暴風災害に注意

★家中で安全に過ごすために・・・

- 気象情報に注意して、暴風雪が予想されているときは外出を避けましょう。
- 停電に備えて、懐中電灯、携帯ラジオ、防寒具、ポータブルストーブや灯油、非常食、飲料水などを準備しておきましょう。
- FF式暖房機等を使用している場合は、給排気口付近が雪でふさがれないよう注意しましょう。



本格的な冬に入ると、発達した低気圧の通過に伴い、大雪や暴風雪となり、交通障害、停電、農業施設の倒壊など災害が発生します。最悪の場合、人命に関わる事態になります。

白老町は他の地域と比べて、降雪は少ないですが、2012年の大規模停電、2018年のブラックアウト、また2020年3月の30cm/日の大雪に見舞われるなど、決して油断はできません。天気予報を確認して悪天候に備えましょう。

★やむを得ず車で外出するときは・・・

- 天気の急変などにより車が立ち往生することを想定して、防寒着、長靴、手袋、スコップ、けん引ロープなどを車に用意するとともに、十分に燃料があることを確認しましょう。



問い合わせ先：総務課 防災交通室 ☎85-3080

知っておこう
アイヌ文化

カムイエレクシ

イランカラプテ。これから寒さが本格化する冬の白老ならではの食材と言えば、スケソウダラを挙げることができるでしょう。昔から冬に獲られる魚で、身は柔らかくあっさりとしており、卵巣を加工して作られるタラコは人気の高い特産品の1つです。白老ではアイヌ語で「カムイエレクシ」(神のタラ)と呼ばれることから、アイヌ民族にとって、その重要さを読み取ることができます。アイヌ文化ではまず、身は内蔵を取り除いて干し、保存食としました。例えば、この干した身を水で煮込み、塩で味つけたものは先祖供養の他、アイヌ民族の最も重要な儀式「イオマンテ(クマの霊送り)」で昔から白老に伝わる供物として伝承されています。また、たくさんの肝臓を弱火でじっくり煮出すことで得られる黄金色の油、タラスムはビタミンが豊富に含まれ、オハウ(汁物)の仕上げに入れたり、茹でたシト(団子)につけて食べるなど、欠かすことのできない食べ物であります。アイヌ文化で重要な魚というとカムイチュエ(サケ)が目ざれがちですが、海に面した白老地方のアイヌ民族の食文化について考えた時、カムイエレクシの身やあら、肝を使ったオハウにこそ、その真髄を見出すことができると言っても過言ではないかもしれません。



アイヌ文化ではタラコの原料となる卵巣よりも身や肝臓の油の方が重要とされるカムイエレクシ

政策推進課 アイヌ政策推進室 学芸員 森洋輔

問い合わせ先：イオル事務所 チキサニ ☎82-6301